

# 1年生 ドキドキ入学式

## 緊急事態宣言解除

### 新学期に児童ら笑顔

新型コロナウイルス感染症の影響で休業が続いていた小・中学校が緊急事態宣言の解除を受けて6月1日、約2カ月遅れで新学期を始業し、学校に久しぶりに児童や生徒たちの笑い声が戻りました。



給食を食べる新1年生(くすのき小学校)

を消毒する、教室では席と席の間を1m以上離すなど、同ウイルスへの感染拡大防止に配慮して行っています。

6月2日には小・中学校で入学式を実施。八幡小学校ではマスク姿の新1年生が、保護者や先生たちに見守られながら入場。担任の先生から名前を呼ばれると、元気な声で返事をしていました。

また、6月8日からは給食を開始。新1年生にとっては初めての給食で、くすのき小学校では、事前に先生が児童たちに準備の仕方や食べるときのマナーなどを説明。机に献立がそろっていると、みんな手を合わせて「いただきます」。児童たちは初めての給食を、おいしそうに口に運んでいました。



晴れ着姿で入学式に臨んだ新1年生(八幡小学校)

## まちの話題

### 交通ルール 園児ら学ぶ

6月5日、八幡第四幼稚園で交通教室が行われ、4、5歳児41人が交通ルールなどを学びました。

園では、園児たちに安全な道の歩き方などを学んでもらおうと、八幡警察署の協力を得て毎年、交通教室を実施しています。

園児たちは、はじめに同署員による紙芝居で、道路のルールや標識の意味を勉強。道を歩くときはお父さんやお母さんと手をつな

### 八幡署、第四幼稚園で教室

ぐ、自転車に乗るときはヘルメットをかぶるなど、事故にあたり、けがをしたりしないためのルールを学びました。

その後、遊戯室に設置した模擬の横断歩道で、正しい道の歩き方を実践。園児たちは横断歩道の前で一度止まり、左右をしっかりと見て車が来ていないことを確認すると、手をあげて安全に横断歩道を渡っていました。



八幡署員から信号機の見方について学ぶ園児たち



苗を植える園児たち

### おいしいお米 楽しみ 内里蜻蛉尻で園児ら田植え

6月17日、有都こども園とみやこ保育園の5歳児33人が合同で、内里蜻蛉尻の田んぼで田植えを体験しました。

この体験は、園児たちに苗植えから収穫までを行ってもらうことで、食べ物大切さを学んでもらおうと、農家である園児の保護者の協力を得て毎年行われています。

例年では園児たちは保護者と一緒にっていますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で保護者は参加せず、先生と

一緒に田植え。

園児たちは、順番に田んぼの中に入っていくと、「ぬるぬるして気持ちいい」と大はしゃぎ。横一列に並ぶと、苗を2、3本ずつ手に取り、ロープの目印に沿って、少しずつ下がりながら丁寧に植えていました。

田植えが終わると、「楽しかったー」と大満足の園児たち。今後は田んぼに手作りのかかしを立てて成長を見守り、秋にはみんなで収穫をしておにぎりなどにさせていただく予定です。

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

## 今月のこの人 重機部品製造「名工」の技



やすい としひろ 安井 敏泰さん

令和元年度京都府優秀技能者表彰を受賞。大型で強靱な建設重機の部品づくりを行う、株式会社クシベウィンテック京都工場に勤務。

金属溶接の技能者として、「令和元年度京都府の現代の名工(京都府優秀技能者表彰受賞者)」に選ばれ「ものづくりが好きで続けてきたことを認めていただき、周りの人に感謝しています」と安井さん。

金属溶接は、扱う材質に応じて熱管理を行わなければならないが、長年の経験や感覚を必要とする作業ですが、安井さんは、誰でも同じ作業を行うことができるよう、自

身の技術をデータ化して形に残す作業を行っています。

勤務する株式会社クシベウィンテックでは、製造部門の統括・管理、人材育成を担い、現在は若手の育成に最も力を注いでいます。

「今は機械化が進んでいますが、同じ製品でも出来上がりはそれぞれ違います。データだけでなく、ささいな変化を見逃さないように、何にでも興味を持ってもらうことが、技術を磨く上では必要なこと

だと思いません」と話し、時代に即した方法を模索しながら、次世代に職人技を受け継いでいきます。



安井さんが手がけた部品を使用した重機

本コーナーでは、市にゆかりのある人物を紹介していきます。自薦・他薦問わず、紹介希望者を募集していますので、詳しくは、市ホームページをご覧ください。か、秘書広報課へお問合せください。